

## 観光センター移転の問題点

### 質問

に、市長がおっしゃる財政非常事態宣言が少し落ちついたのか、政策的な予算も、少し補正予算でつき始めました。まず、今回の補正予算で計上されている観光センター移転費用について伺います。

今回、敷金及び共用部整備負担金、いわば初期経費として 407 万 4,000 円。33 年度までの実質 6 年間の借り上げ料として 3,643 万 2,000 円が計上されています。

もし、移転がなされた場合、その他、どのような経費が必要で、年間運営費はどれほどになるのでしょうか。

### 中江理晶まち産業活性部長

観光センターが（仮称）エキスポランド跡地複合施設に移転した場合の年間の運営費は、約 1,200 万円でございます。

主な内訳といたしましては、賃料等として 607 万 2,000 円、また移転後は開館日、開館時間のいずれもが大幅に延長されますことから、運営委託料がこれまでの約 398 万円が約 590 万円になると試算いたしております。そのほか、光熱水費、廃棄物処理費及び室内清掃費などの諸経費が別途必要となります。

なお、賃料等につきましては、観光センターが移転したスペースを消費生活センターの会議室として利用するため、現在、同センターが別途借りている会議室の賃料等約 303 万円が削減されることから、市全体の予算で見た場合、実質の増額は約 304 万円となります。

以上でございます。

### 質問

賃料が年間約 600 万円、運営委託費も年間約 600 万円、6 年間の契約で約 7,000 万円強。初期投資として内装工事費等も必要、光熱水費等も必要ということで、今回の補正予算が通ると、6 年間で 9,000 万円近くの予算がこの事業に使われるということがわかりました。

移転の話をする前に、まずは現状認識をしたいと思います。現在、さんくす 3 番館 2 階に観光センターはありますが、観光センター運営のために、設立から現在までにかかった総費用及び設立から平成 25 年度までの年度ごとの来場者数をお聞かせください。

### 中江理晶まち産業活性部長

観光センターが開設されました平成 21 年（2009 年）10 月以降、平成 25 年度（2013 年度）までにかかりました総費用額は、約 2,500 万円でございます。

なお、観光センターが、消費生活センターの一部に設置されたことに伴い、消費生活セ

センターの会議室として別に借りておりました部屋の賃料等として同期間に別途約 1,400 万円がございました。これは市民生活部の予算として執行をされております。

次に、年度ごとの来場者でございますが、平成 21 年度（2009 年度）が 1,191 人、平成 22 年度（2010 年度）が 2,865 人、平成 23 年度（2011 年度）が 4,707 人、平成 24 年度（2012 年度）が 5,178 人、平成 25 年度（2013 年度）が 4,253 人でございます。

以上でございます。

## 質問

4 年半でおよそ 3,900 万円、この事業にかかったということなんですけども、観光センターの設置の趣旨及び目的、そして、費用と来場者数を鑑みて、どのような評価をされているのか、経済性、効率性、効果性の観点からお聞かせください。

**中江理晶まち産業活性部長** 観光センターは、開設以来、観光情報の受発信を目的として、施設運営の充実に努めてまいりました。

平成 23 年度（2011 年度）からは民間事業者の活力を活用すべく、一般社団法人吹田にぎわい観光協会に管理運営を事業委託したことや、センター内の観光情報冊子の充実、本市魅力発信フェアを開催することなどにより、開設当初に比較して来訪者数は増加しているものの、さらなる増加に取り組む必要があると認識しております。

フェアにつきましては、おおむね年四、五回開催し、好評を得ておりますが、そのうちのひとつ、貨物フェアでは、日常触れることのできない模擬運転台に触れることができるなど工夫を凝らした催しにより、来訪者からは満足度の高い声が寄せられました。

また、鉄道に関する展示は市立博物館等でも実施されるなど、市内他施設への波及もしています。さらに、フェア開催を通じ、相互信頼を築いたことで、本市魅力を PR する観光ポスターを 100 駅を超える鉄道各駅に掲示いただいた実績もございました。

これら観光センターでの取り組みの波及効果を考えますと、一定の効果を上げているものと考えております。

観光センターの事業の評価につきましては、他の事業同様、行政評価や実施計画の策定に当たり開催しています部内マネジメント会議におきまして、議論を行っているところでございます。

そうした一連の議論の中で、市内回遊の促進による地域経済の活性化を目的とした観光施策を推進するためには、さらなる来場者数の増加が必要であること、また情報の受発信ツールの一層の充実が必要であることといった課題認識を持っているところでございます。

以上でございます。

## 質問

延べ来場者数が4年半で1万8,194名、1日当たり大体11人です。来場者1人当たりにかかる費用が大体2,143円だったわけです。

先ほどの御答弁ではちょっと不明確だったので、改めて伺いますけれども、経済性、効率性、効果性の観点からの評価をお聞かせください。

なお、この言葉は私の言葉ではございませんで、事業見直しの取り組みにおける言葉でございます。費用対効果って言い直したほうがわかりやすいのかもしれませんが、費用対効果からもう一度評価をお聞かせください。

## 中江理晶まち産業活性部長

費用対効果につきましてでございますけれども、今御答弁申しましたように、1日当たり11人ぐらいの人数になってございます。こういった状況の中で、かけてる金額からしまして、なかなか効果が発揮できていないというのが現実かと思えます。

ただし、これにつきまして、そういう反省も踏まえまして、より人がたくさん来場いただくようなエリアへの進出を検討したというところでございます。

以上でございます。

## 質問

そもそもなぜ来場者数が少ないのかと分析されているのかというのを聞かせていただきたいのと、吹田市の観光資源っていうのは何なのかっていうのを、部長の考えをお聞かせください。

## 中江理晶まち産業活性部長

吹田の観光資源ということでございますけれども、いろいろ、いわゆる従来から言われる観光地というようなこととは認識をいたしておりません。以前の議員の質問にも御答弁をしておりますように、吹田の持っているいろいろ過去からイメージとして定着がしていたようなビールと操車場のまちでありますとか、そういったまちのイメージがあると思います。観光施策を進める上におきましては、そういったまちのイメージというものを大切にしながら発信をしていかないといけないというふうに考えてございます。

そういった部分でいいますと、近年では大学のあるまちであるとか、ガンバ大阪のあるまち、そういったこと、新しく吹田に定着しているようなイメージ、魅力をより効果的に発信できるような、これからの観光施策を進めていく必要があるというふうに考えてございます。

以上でございます。

## 質問

済みません、外部評価からも吹田市として観光をどのように捉えるのかが大事だというふうに指摘を受けておったはずなんですけども、余り改善されていないようです。

万博公園に移転するという事なんですけども、この間、観光センターへ行きましたところ、職員さんとお話しして、吹田市の観光地ってどこですかって伺うと、万博以外でと申し上げますと、浜屋敷とか、旧西尾邸とかっていうふうに言われまして、それ以外はって言うと、このパンフレット見てくださってというふうに言われたんですね。その話を聞く限りでは、今の場所でも十分いいのかなと。もともとの目的だった市民の市民による市民のための観光を担うセンターとして今後も機能していけばいいのじゃないかなと思います。1,200万円もかけるわけなんですけども、だったら、万博公園にJR吹田駅から、福祉巡回バスの発展版という形で、コミュニティバス等を走らせるほうが、まだ経済の活性化につながるのではないかなと思います。

今回のこの観光センターについては市の単独事業なのかなと思っております。事業見直しでは、原則として新規、拡充を行わないということですが、今回は例外に当たるのかと思います。行政経営部長、例外事由を御説明ください。

**門脇則子行政経営部長** 新規、拡充を行わないっていうことはないです、実際、9月でも補正予算で拡充事業が上がっておりますので。

事業見直しといいますか、市長が当選されました23年7月では新規、拡充は、普通でしたら肉づけ予算ということになりますけど、そのときには、新規、拡充を行わないという方針を立てて取り組んではきましたけども、子ども医療を初めとして新規、拡充、それは実施計画、予算査定等をきちっと通常のルートを踏みましてやっております。

以上でございます。

## 意見

済みません、この間の中間報告に基づいて質問をさせていただきまして、ここには、市単独事業については原則として新規、拡充を行わない、評価はAってなってるんですけども、もうちょっと何かよくわかりません。